

## 議事録

会議の名称	令和5年度第15回西東京市総合計画策定審議会
開催日時	令和5年7月5日（水曜日）午後6時から7時30分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階庁議室
出席者	市川武志委員、伊藤一雄委員、伊藤泰彦委員、河野美晴委員、小松真弓委員、佐々木亮翔委員、篠原京子委員、土井隆司委員、中島伸委員、中嶋亮太委員（50音順） 事務局：柴原企画部部長、佐野企画部副参与兼企画政策課長、樽見企画部主幹、広瀬企画政策課副主幹、八巻企画政策課主任、豊田企画政策課主事 欠席：佐久間雄一委員、松川紀代美委員
議題	議題1 開会 議題2 諮問事項に対する協議検討 （1）「西東京市第3次基本構想・基本計画案 中間のまとめ」に対する意見について （2）審議会委員からの意見について 議題3 その他
会議資料の名称	資料1 「西東京市第3次基本構想・基本計画案 中間のまとめ」パブリックコメント実施結果及び意見概要 資料2 市民説明会実施報告書 資料3 審議会委員からの意見について 資料4 若者施策について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><u>議題1 開会</u> 会長より開会の挨拶</p> <p><u>議題2 諮問事項に対する協議検討</u> （1）「西東京市第3次基本構想・基本計画案 中間のまとめ」に対する意見について事務局から資料1、資料2に沿って説明</p> <p>○委員 資料1について、まとまった回答案はどういった形で市民に公表するのか。</p>	

○事務局

ホームページと情報公開コーナーで公表する。また、市報でもお知らせする予定である。

○委員

これらの回答案をもとに、現在の基本構想・基本計画案に修正等を加えるのか。

○事務局

現時点では、資料1の2ページ、No.3の「屋敷林」の表現について、関係部署と調整の上、可能な部分は計画への反映を考えている。

○会長

市民から届いた貴重な意見なので、内容に基づいて、見直すべきところは見直すということである。

回答案を確認しつつ、中間のまとめの内容についても、修正すべき点があれば意見をいただきたい。

資料1の2ページ、No.1の「自分ごと」という表現について、市民に責任を押しつけるのではなく、市民が当事者意識を持って能動的にまちづくりに参画できるということを示していると考えている。事務局の回答案について気づいた点はあるか。

○委員

「自分ごと」という表現は、審議会の中では意味を共有できているが、ぱっと見ると誤解を与える言葉だとも感じる。計画そのものの最終責任者は市長なので、市長が市民に対して「自分ごと」という言葉を使うのは厳しいのではないか。何か「自分ごと」に代わるような言葉があればよいが。

○委員

私は、「自分ごと」という言葉にマイナスなイメージは持っていない。押しつけではないし、市民が市の未来を考えるというのは当然のことである。そのため、表現を変えるのではなく、「自分ごと」という言葉が押しつけがましいと感じられてしまう現状を変えるために、何かアプローチしなくてはならないのではないか。「自分ごと」という言葉は変えるべきではないと思う。

○会長

「自分ごと」について、誤解を与えないような表現があるのではないか。例えば、中間のまとめの4ページ目、「西東京市の未来を『自分ごと』として捉え、主体的にまちづく

りに関わり」とあるが、「西東京市の未来を、主体的にまちづくりに関わることができる『自分ごと』として捉え」とするのはどうか。

○委員

回答として、押しつけではないと伝えることが第一にある。その上で、押しつけではないけれど、「自分ごと」なのは当然であるということも伝えたい。

○委員

SNSの普及により、個人を主張し、大事にしなくてはならないという社会的な環境ができつつある。その変化についていけず、「自分ごと」を押しつけがましいと感じる人はどれくらいいるのか。人によって受け取り方は違うと思う。意見を無視しているわけではなく、それに対する考えを述べている今の回答案に賛成する。

○会長

お二人の意見に賛同する一方で、ここでは基本理念の「ともにみらいにつなぐ やさしさとこいの西東京」を前面に出しており「自分ごと」はメインのフレーズではないため、メインのフレーズに誤解を与えてしまうようなことは避けるべきだという考えもある。「自分ごと」という言葉を取って、「西東京市の未来について、主体的に関わり、責任を持って次世代につなぐ」としてもメッセージは伝わるのではないか。「自分ごと」という言葉を取るべきではないという考えの方がいれば意見をいただきたい。

○委員

「自分ごと」の鍵かっこを取るだけでも印象が変わるのではないか。

○委員

「自分ごと」はこのまま残したい。これを押しつけがましいと感じられてしまうという状況がおかしいと感じる。まちづくりに関わっている人の中には、市民にもっと参加してほしいと思っている人は多いのではないか。この部分では、良くも悪くもインパクトを残したいので、鍵かっこも残して「自分ごと」を強調したい。

○委員

総合計画は、市の職員や審議会のためのものではなく、市の目指すべき方向性を、「自分ごと」として市民と一緒につくっていくものである。「自分ごと」として皆さんでつくっていきましょうというのは総合計画の隠された意味合いであり、審議会からのメッセージなので、「自分ごと」という表現についてはプライドを持って伝えていきたい。

○委員

審議会で、なぜ自分たちが「自分ごと」という言葉を持ち出したのかと考えた。市民には「自分ごと」と思っていない人が多いのではないかという仮説を置き、『「自分ごと」と思っしてほしい』という思いからこの言葉を入れたのではないかと推測した。

人は自分ができていないことを指摘されると腹が立つが、「自分ごと」という言葉が押しつけがましいと捉えられてしまったことにはそれが関係していると考えられる。

イングビルで実施された市民説明会の「その場de井戸端会議」に参加して、市民活動に積極的に参加している人は、活動経験を通して「自助」や「自分ごと」の必要性を理解できるが、そうでない人は少し難しいと感じた。市民活動に参加している人は相対的に少ないと感じているので、「自分ごと」という言葉を残すことについて心配がある。

○委員

行政、団体、市民がそれぞれ並んで活動しているということが見えないと、市民に押しつけているという印象が生まれてしまう。現状、まちづくりに関わっている市民は多くはないため、「自分ごと」が腑に落ちない人はいると思う。ただし、総合計画は10年間の計画なので、長いスパンの考え方として、これからこうなるといいなという多様な願いが受け入れられるようになってほしい。

市民が受け入れやすい、置き換わる言葉があればいいが、「わがこと」などよりも「自分ごと」がしっくりくる。

○会長

「自分ごと」は「自助」「共助」「公助」とセットの話だと感じた。「自助」「共助」というと市は何もしないのかというところではなくて、「共助」できるプラットフォームを市が整えるということだと思う。「自分ごと」として捉えられる機会を市が用意するというような表現を加えることが、「自分ごと」を残すのであれば必要だと考える。

宮崎県の延岡駅前に地域活動のための施設ができた。限られた人が行う市民活動の場を地域に開かれた場所に置き、日常の生活に溶け込ませることで、ファンを増やし、無関心だった人を近づけることができる。

総合計画の策定を考えると、審議会は内容を検討する中心であるため、周囲を取り込むべきであり、無関心な人にも違和感がないような状況をつくることも大切である。審議会内で話していると、「自分ごと」の重要さを訴えたいと思ってしまうが、市民に違和感を与えてしまうことは損になるので、取ってもよいのではないかと。

○委員

「自分ごと」はこのまま残してよいと思う。子どもワークショップに参加した若者や子どもにとって、総合計画の策定が「自分ごと」になっていると感じた。同様に西東京市の

ミライを語るシンポジウムに参加した人、オンラインで視聴してくれた人にとっては、すでに「自分ごと」なんだろうなと思う。今の若者や子どもが「自分ごと」として参加しているので、言葉に違和感を持たないと思う。

市外の方から、西東京市は市民活動が活発だと言われる。数字に明確に表れているわけではないが、自分が地域課題だと思っていることを「自分ごと」として、行政、企業、自治会とともに解決していこうと活動している人は多いのではないかな。

○会長

「自分ごと」を鍵かっこのまま残し、「責任を持って次世代へつないでいくための機会や仕組みを整える必要があると考えています。」とするのはどうか。行政からの押しつけ感は薄れると思うが、事務局はいかがかな。

○事務局

ここまでの議論からも、捉え方は色々あると認識している。行政の計画は平たい言葉であっても強圧的に捉えられてしまうケースもあるので、違和感がない表現というのは大切であると考えている。

○委員

市民説明会の「その場de井戸端会議」に参加したとき、なんとなく違和感を持っていたが、市民は、この計画が行政のみでつくったものという認識でいる。そうなると、市民は「自分ごと」として捉えてくださいと市の職員に言われているような気持ちになり、押しつけがましいと感じてしまう。しかし、市民である私たちが入ったこの審議会では、自分たちで西東京市をつくりたいという気持ちで計画づくりに関わってきた。第3次総合計画は、市民が参加して魂を込めてつくったものだと示したい。

○委員

先ほど意見のあった『自分ごと』なのは当然である」という言葉がしっくりきた。人任せでは先に進まないということを市民に伝えたいのだと思った。プライドを持ってつくったものであるので、「自分ごと」を残すことに賛成である。

○委員

「自分ごと」を押しつけがましいと感じられてしまうのは、「市と市民が一緒にやっけていきましょう」という意味合いの言葉が入っていないからではないかな。こういった言葉が入ると印象が変わるのではないかな。

○会長

基本理念の頭に「ともに」と書いてある。また、「自分ごと」に関する文章の前に、「さまざまな主体がともに課題に向き合い」とあるので、今のご意見の懸念は解消できているのではないかと。

○委員

「自分ごと」を含む3行は基本理念そのものの必要性をまとめとして結んでいると思うので、会長の「責任を持って次世代へとつないでいくための機会や仕組みを整える必要があると考えています。」という修正案だと、機会や仕組みを整えることが、「ともにみらいにつなぐ やさしさといこいの西東京」に必要だということになってしまうのではないかと。

○会長

「主体的にまちづくりに関わることのできる環境を整え、責任を持って次世代へとつないでいく必要があると考えています。」とするのはどうか。

○委員

谷戸公民館では、「その場de井戸端会議」には高齢の方が参加しているところを見た。ひばりが丘公民館では、ひばりが丘から来ていた人は自分ひとりだけで、意見を持って、他のところからわざわざバスに乗って来ていた方が多かったことから、これからの市の方針に積極的に関わっていきたい市民の方々がいるんだなということを感じた。

人が少なかったことも印象に残っているが、こういった場に参加をしていなくても、市のことについて自分ごととして捉え、意見を持っている人はたくさんいる。そのため、「自分ごと」という表現はこのままでよいのではないかと。

○会長

市民説明会の「その場de井戸端会議」には、20代の市民も参加して多世代でディスカッションできたと聞いている。

これは提案であるが、資料1の3ページ、No. 6について、市の役割として『共助』をつくるための基盤を整える」という表現をするのはどうか。その他の箇所についても意見をいただきたい。

○委員

資料1の2ページ、No. 1の回答案について、「まちづくりの課題」という書き出しがあるが、まちづくりには課題解決だけではなく、「自己実現」「楽しい」「やりたいことができる」などポジティブな関わり方もあるため、それらを表現できるとよいのではないかと。

○会長

中間のまとめの10ページ、基本構想「5. まちづくりの課題と基本施策」のタイトルに「まちづくりの課題」という言葉が含まれている。説明の中では、「自分らしく活躍することができる」という内容が表記されており、委員の主張された内容が盛り込まれていると思う。

ここでは、目標に対して課題と施策が記載されているが、タイトルでは「目標」の言葉がない。「まちづくりの目標・課題と基本施策」と表現するのは問題があるか。

○事務局

中間のまとめの6ページで基本目標を整理し、見やすさ・わかりやすさの観点から、再掲する形で目標、課題、施策という流れで表した。まずは目指すべき将来像を示し、そこから全体の話を進めるというつくりとしている。

○会長

確かに目標が入ると前節との齟齬が生まれてしまう。

○委員

資料1の3ページ、No. 6について、正規職員、非正規職員に関する内容は、提出意見や意見概要では触れられているが、回答案では触れられていない。

○事務局

正規職員、非正規職員の数というよりは、市がきちんと「公助」を進めるべきという指摘のため、「今後のまちづくりを進めるためには、「公助」「共助」とともに大切な要素である」という回答でまとめている。

○会長

「公助」「共助」の話、官民連携の話、労働の話が混ざってしまっている。合理化のために非正規職員が増えたというのであれば、そのことを整理して回答するのもよいのではないか。回答になっていないという意見があったので、事務局には整理をお願いしたい。

○委員

総合計画は、行政（官）の施策の根拠になる一方で、審議会では、「官」だけではなく、「市民」が何をするかということを含わせて検討していると認識している。

総合計画で使われている、「私たち」という言葉について、「市民」「官」も含めた人々というニュアンスが上手く伝わっていないように思う。「私たち」に自分は含まれている

と感じられていない人がいるので、「自分ごと」という表現を残すことは重要であると考ええる。

資料1の3ページ、No. 6の中で、「行政が行う計画ですので、『公助』が中心となるべきものが」という記述があるが、このような考えに対しては「私たち」の計画であることを伝えるべきである。

回答案も、(事務局整理)となっていて、結局行政からの目線でしかないように見えてしまう。そのため、審議会委員の意見を紹介するのもよいのではないか。審議会で言葉ひとつひとつにメッセージや思いを込めているが、パブリックコメントを見て、それが伝わっていないように感じた。

パブリックコメント全体を通して、行政計画としてチェックされるだけになってしまっている。

#### ○会長

市民の声を聴いて、審議会で議論を行ったということも含めると、回答もしやすくなるのではないか。

#### ○委員

先ほどの委員のご意見については、パブリックコメントの回答だけでなく、計画の冒頭で「策定にあたって」として述べるのがよいのではないか。そこを読んでもらえば、その後の文章も正しく伝わるようになると思う。

#### ○委員

「私たち」という表現について、理解してもらえているか心配していた。策定の趣旨には一緒につくりあげてきたという記述はあるが、もうひと押し何かあるとよいのではないかと感じていたので賛同する。

パブリックコメント全体の意見を見ていると、公民館の職員に非正規雇用が多いという意見がある。公民館を大切な場所として考えている人達は、社会教育の場として、正規雇用の職員を起用してほしいという意見を持っている。

#### ○会長

回答案については、今回の審議会に出た意見を踏まえ、次回の審議会でもう一度意見を求める予定である。また、資料1の4ページ以降のパブリックコメントの内容については、各所管の意見をまとめて回答案を作成し、示す予定である。中間のまとめに関する意見についても、修正案を事務局に用意していただきたい。

公民館について、学校を核としたまちづくりについて、審議会のあり方についての意見などが多かったが、今日の審議会での意見が回答につながると考える。

○委員

検討結果の公表について、1番から81番まで全て回答するのか。

○事務局

一問一答という形ではなく、似ている質問はまとめるが、提出いただいた意見には回答する。具体的な取組などへの意見については、「今後検討する。」という回答もある。

○委員

パブリックコメントにて市民憲章についての意見も挙がっているので、市民憲章には触れるべきだと思う。

○会長

市民憲章については、第2次総合計画と同様に、冒頭に示すと聞いている。

(2) 審議会委員からの意見について

事務局から資料3、資料4に沿って説明

○委員

資料3、No. 8の子どもの権利侵害に関する相談体制について、自分自身ももっと早く気づけばよかったが、この時点で取り入れていただけてよかった。

○会長

資料3、No. 4のジェンダーの多様化について、中間のまとめは一旦このままで、最終的には個別計画との整合性を取るということで理解した。

○委員

資料3、No. 1について、地域福祉計画に「互助」という言葉が出てきたが、計画によって違うのか疑問に思った。「自助」の次が「共助」だとハードルが上がってしまうので、「互助」を入れてはどうかという思いから意見を出した。

○事務局

地域福祉計画で「互助」が使われている。その中の言葉の整理として、「共助」は「制度化された相互での助け合い」とされている。福祉分野ではそのように使用していると思うが、防災などの観点からは、制度化された助け合いとは何なのか整理することは難しい。そのため、一般的な「自助」「共助」「公助」の3区分の表記とした。

○委員

参加した市民説明会でもジェンダー、多様性についての話があった。当事者の方からこれらについて計画に反映されていないという意見があったが、審議会としては、性的マイノリティなどについても議論していた。このようなことが伝わるような見せ方も検討してほしい。

○会長

事務局には、審議会でもジェンダーや多様性については社会的課題だと捉えており、市民からの意見も届いているということ、個別事業を実施している部署に伝えてほしい。もし何かの回答をするときには、このことを課題として捉えていて個別計画の中で議論していくこと、ジェンダーの多様化に関することを除外していないということの担保として「人種、国籍、性別、年齢、信条、社会的身分『等』」に含めているということ伝えてほしいと思う。

議題3 その他

○事務局

7月26日（水）の次回の審議会では、パブリックコメントの回答を議論していただく予定である。その後、8月上旬に最終的な答申と考えている。

○会長

承知した。以上で、第15回西東京市総合計画策定審議会を閉会する。

（閉会）